



「プラスチック・スマート」キャンペーンについて

【キャンペーンの趣旨】

- プラスチックによる海洋汚染が深刻な問題に
- 我が国が国内でこれまで実施してきた様々な取組と率先実行を国内外にアピールし、国内外の更なる取組を促したい

平成31年1月

環境省

1. プラスチックごみによる海洋汚染の状況

- 2050年には魚の量を上回るとの試算も
- 観光、漁業にも影響が

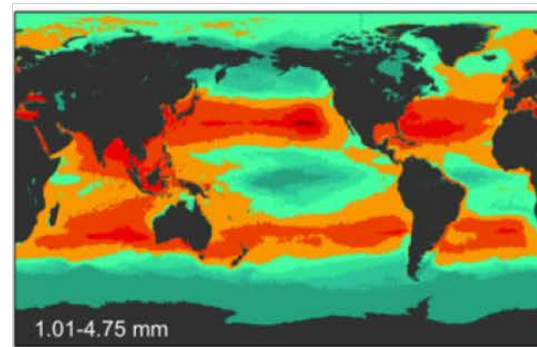
□ 世界規模での汚染拡大



出典: UN World Oceans Day
ウミガメに巻き付いたプラスチック



出典: タイ天然資源環境省
クジラの胃から出てきたポリ袋



1.01-4.75 mm
マイクロプラスチックの分布(モデル予測)

□ 海岸に大量に漂着する海洋ごみ



日本



米国



島嶼国

□ ワンウェイ容器

- ・日本は1人あたりのプラスチック容器包装の廃棄量世界2位 (約35,000g/年)

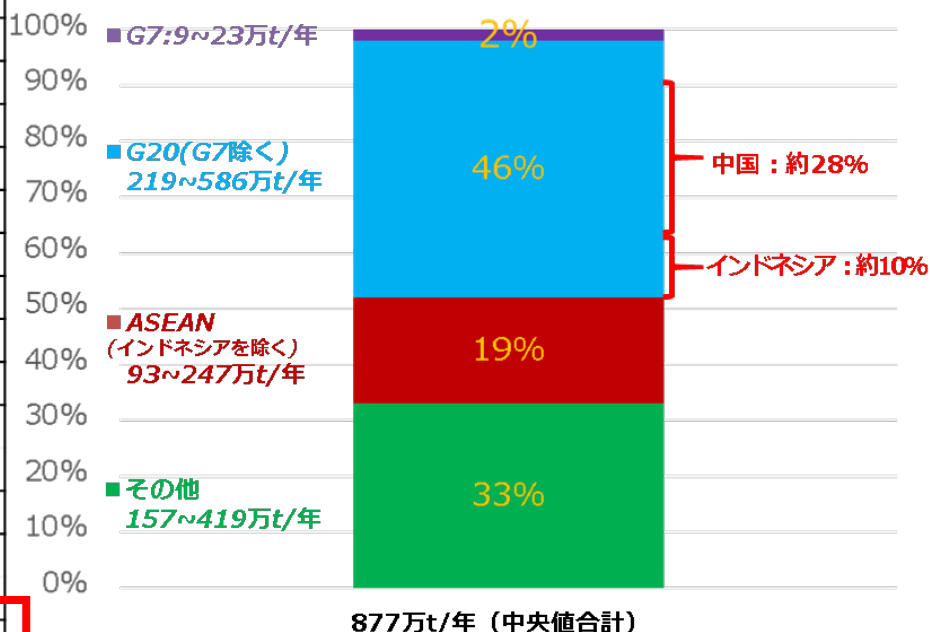
2. 世界の流出の実態

- 年間約500万～1300万トン流出との推計
- 中国及び東南アジアからの流出が多い

<国別流出量（2010年推計値）>

1位	中国	132～353万トン/年
2位	インドネシア	48～129万トン/年
3位	フィリピン	28～75万トン/年
4位	ベトナム	28～73万トン/年
5位	スリランカ	24～64万トン/年
6位	タイ	15～41万トン/年
7位	エジプト	15～39万トン/年
8位	マレーシア	14～37万トン/年
9位	ナイジェリア	13～34万トン/年
10位	バングラデッシュ	12～31万トン/年
	⋮	
20位	アメリカ	4～11万トン/年
	⋮	
30位	日本	2～6万トン/年
合計		478～1275万トン/年

<国別流出割合>



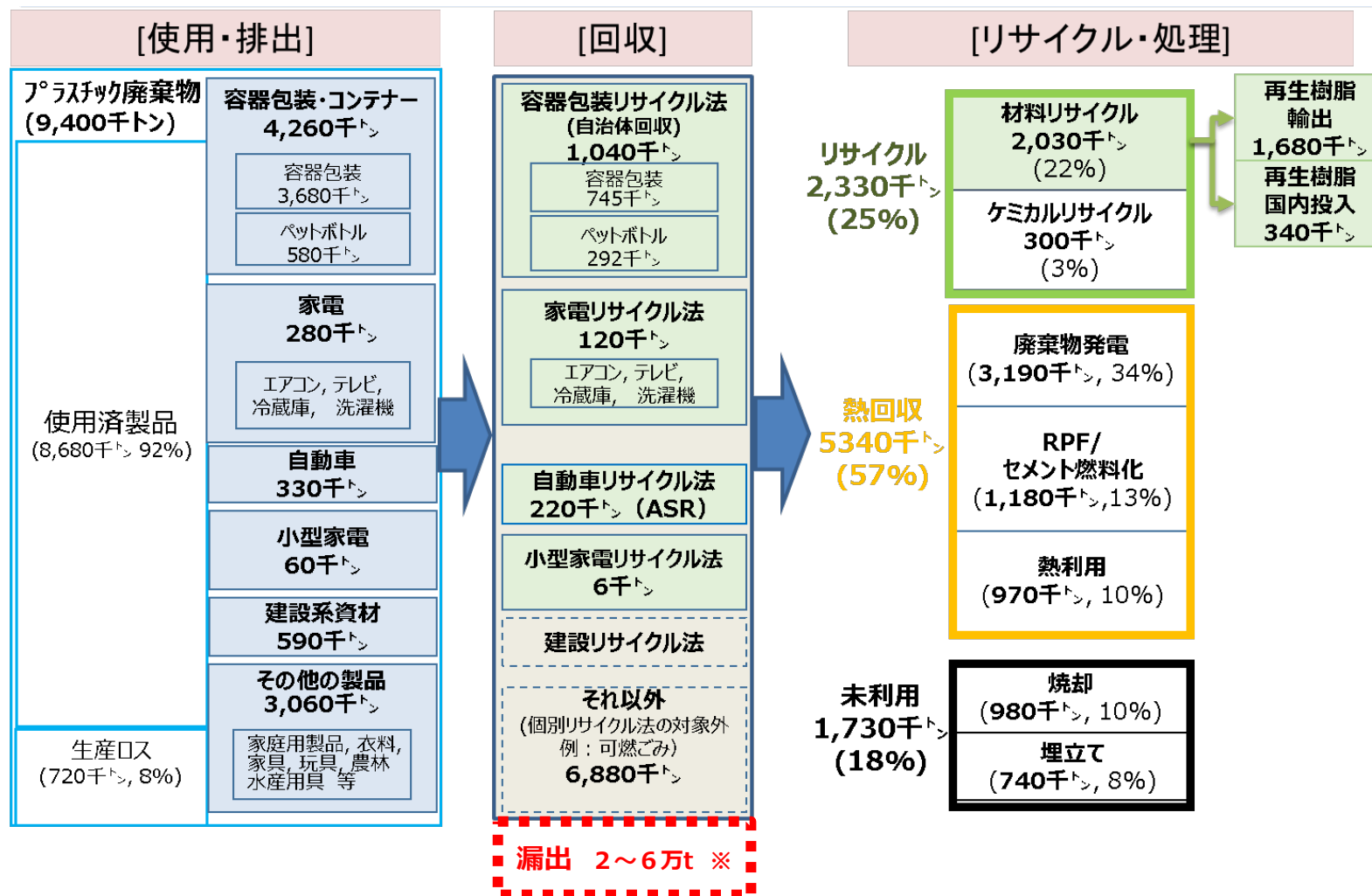
※割合は流出量（推計）の中央値で計算（2010年）

（出典）Jambeckら：Plastic waste inputs from land into the ocean, Science (2015)

※一研究者による人口、経済規模等のデータからの推計。温室効果ガスの場合とは異なり、国際合意のある統計は、現状では存在せず、科学的知見の収集が急務。

3. 我が国におけるプラスチックの資源循環

- プラスチック廃棄物 = 9.4百万トン/年（全廃棄物（431百万トン）の2%）
- リサイクル率 = 24.8%, リサイクル + 熱回収率 = 81.6% （2013年時点）



4. 参加頂きたい主体、取組の例

- 各省庁・業界団体・企業・自治体・NGOなどの幅広い主体から、海洋プラスチック問題の解決に貢献する以下のような **“プラスチックとの賢い付き合い方”** を募集します。

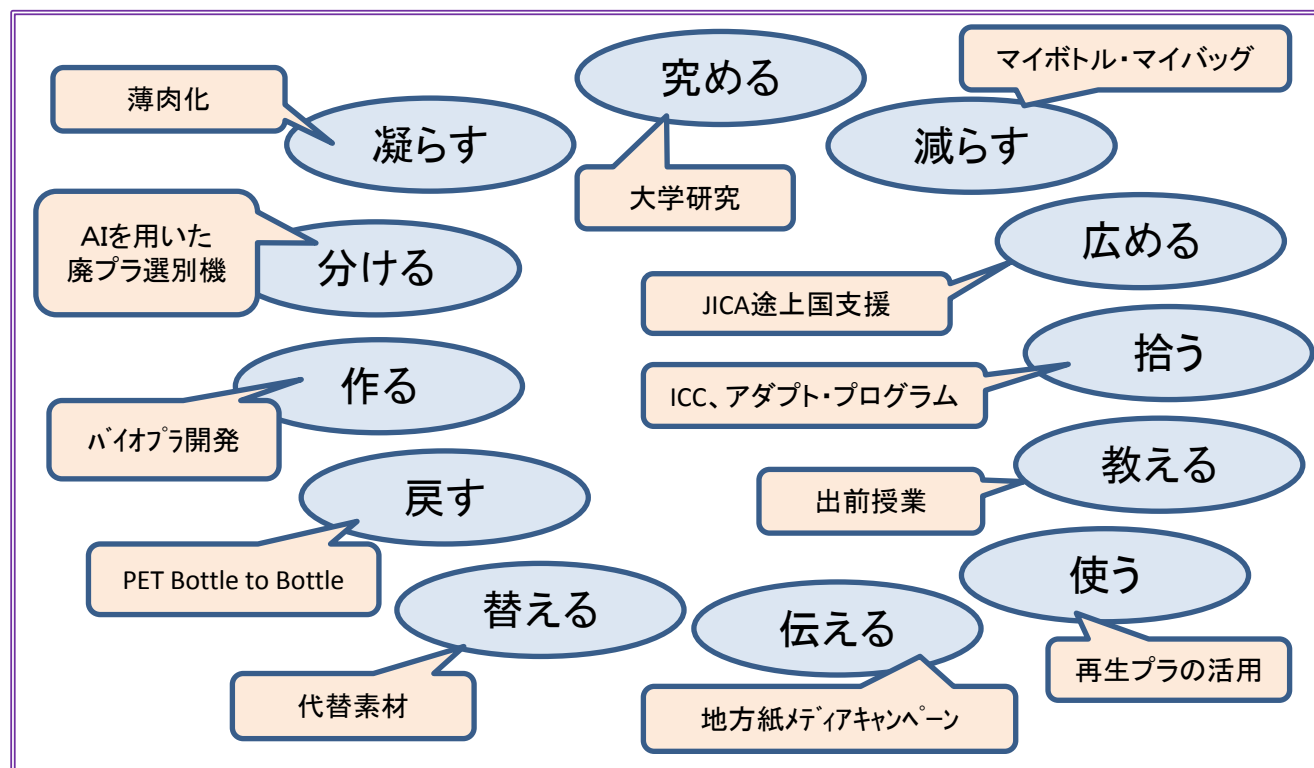
主体

—

- ・ 各省庁
- ・ 業界団体
- ・ 企業
- ・ 市区町村、都道府県
- ・ NGO、NPO
- ・ 個人、消費者 等

取組

—



5. 参加・発信方法（企業、自治体、NGOなど）

- キャンペーンサイトから取組をご登録頂ければ、様々な方法で国内外に発信します。

- 「プラスチック・スマート」 キャンペーンサイト

（  で検索） にアクセスし、取組を登録して下さい



○○は、プラスチックの徹底分別に取り組んでいます。

- **共通ロゴマーク**をダウンロードして下さい

→ ニュースリリース・商品カタログ・名刺などにロゴを付けてPR頂けます

【ご登録頂いた取組の発信】

- 環境省公式twitter（約29万フォロワー）や報道発表等で取組を紹介
- 国内外のイベント、「プラスチック・スマートフォーラム」が開催する国際シンポジウム（2019年5～6月頃予定）等で取組を発信
- 英語で登録したものを、世界経済フォーラムの下での循環経済の官民連携プラットフォーム「PACE」などと連携して、**世界に発信**
- 2019年6月のG 2 0 エネルギー・環境関係閣僚会合の機会に、フォーラムで、**優れた取組について発表・表彰**

5-2. 参加・発信方法

- 本キャンペーンについては、環境省HPのトップページで情報発信をしています。



環境省HPトップページ

「プラスチック・スマート」
キャンペーンサイト



6. これまでの参加の状況（12/26時点）

□ 環境省、経団連、日本マクドナルド、積水ハウス、ANA、イオン、三菱商事、兵庫県、沖縄県、北九州市、呉市など
100社・団体




“ワイズ・コンサンプション”の率先的取組

環境省

[減らす](#)

1. 審議会や検討会、かき混ぜ器
2. 本庁舎をはじめ、今後使用します
3. 職員に対して、ストックの使用を
4. テナント等、グリーン購入の取組を各






SDGSに資するプラスチック関連取組事例集の公表

一般社団法人 日本経済団体連合会

[伝える](#)

本経済界は、海洋プラスチック問題と資源循環に資する様々な取組を推進しています。経団連では、会員企業・団体等を対象に行ったアンケートを基に、2018年11月、「SDGsに資するプラスチック関連取組事例集—プラスチックを未来に「プラス」なTORIKUMI—」を公表しました。事業期間1ヶ月（2019年12月12日～10月12日）で寄せられた取組は200事例を超えており、3R（リユース、リユース、リサイクル）はもちろん、海洋清掃や環境教育、プラスチック代替材の開発・利用など、多岐にわたっています。

[詳細はこちら](#) ※外部ページにリンクします。





マイボトル・エコバックキャンペーン

積水ハウス株式会社

[伝える](#)

施工現場のプラスチック廃棄物を年間17,326t リサイクル（2017年度）。さらに、社内会議でのペットボトルの配布を禁止し、社内の自動販売機からペットボトルを無くします。加えて、「Plastics Smart」ロゴ入りボトル・エコバックを配布し、ワンウェイプラスチックの使用を減らします。

[詳細はこちら](#) ※外部ページにリンクします。





機内・空港や事業所の廃棄物の3Rの推進

全日本空輸株式会社

・国際線機内で発生する廃棄物（ビン・缶・ペットボトル）の分別化、ペットボトルのリサイクル・整備作業時のビニール袋のリユース、貨物業務で発生したビニール袋のリサイクル・事業所で発生する廃棄物を分別化、ビニール類、ペットボトルのリサイクル・再生プラスチックを原料とした機内用品（国際線飲料カップやサラダボールカップなど）の導入

[詳細はこちら](#) ※外部ページにリンクします。




手荷物受取場でのポリ袋の回収

7. 「プラスチック・スマート」フォーラム

- 海洋プラスチックごみの削減に向け、“プラスチックとの賢い付き合い方”を全国的に推進する「プラスチック・スマート」キャンペーンを更に強化することを目的として、「プラスチック・スマート」キャンペーンの参加者を始めとする様々な団体の対話・交流の促進するものとして設置。
- フォーラムでは、関係団体とも連携し、大臣表彰の実施、シンポジウム開催、各地域でのイベント等の実施等の情報発信・普及啓発を行うほか、研究者による最新の知見を共有する。

フォーラム（事務局：環境省委託先）

実施

関係団体と連携した各種イベントの実施

（平成31年度より実施）

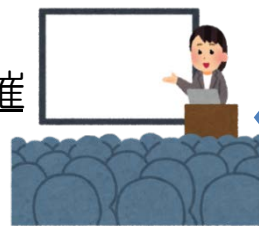
会員間の情報共有の促進、国際動向等の情報共有

大臣表彰の実施



G20海洋ごみ 国際シンポジウム開催

例) G20などの機会に、会員の
取組を発信



海ごみゼロウィーク（仮） 等、各地域での イベント等との連携



関係団体との連携実施

民間団体

業界団体

地方公共
団体関係

地方公共団体

NGO・
NPO

フォーラムを通じて
対話・交流を活性化

研究機関等

企業・
業界団体

国

イン
プ
ット

※会員は各界各層の企業・団体から広く募集（会費なし）
※本フォーラムは、主体間の連携が活性化するまでの間、
集中して活動。

調査研究／対策の推進

海洋ごみ研究会（仮称）

・分野横断的な調査研究の推進